

情報システム最適化推進業務 総合評価基準

評価項目		配点			評価ポイント
		基礎点 (必須要件)	加算点（委員）	加算点（事務局）	
1 本業務の実施体制・能力		5	0	105	業務の実施体制や各要員のレベルについて記載
①実施体制・構成員・役割等	要員・配置	1			●業務の実施にあたって必要な実施体制（配置要員の特徴や本業務での役割など）について、明記されているか。
	補助体制	1		5	●円滑な業務遂行のため、人員の補助体制について、明記されているか。 （A：優れた内容、B：十分な内容、C：最低限の内容、D：内容不足、E：記載がない・内容がない）
	道との役割分担			20	●道との役割分担や道に求める体制について、明記されているか。 （A：優れた内容、B：十分な内容、C：最低限の内容、D：内容不足、E：記載がない・内容がない）
②情報化推進アドバイザーの選任	情報化推進アドバイザー	1			●道の情報化推進アドバイザーの立場として、各事業者との打合せへの同席や経費の精査に当たっての事業者との折衝を行うことを想定しているため、業務委託期間中における同一人の専任が可能か。 また、道からの求めに応じて、来庁（週2日程度）が可能か。
	同様の業務実績			30	●R5.4.2～R8.4.1までの間に、国や自治体において同様のアドバイザー業務の経験があるか。 （「ITアドバイザー」等の名称は問わない） （6ヶ月未満で0点、6ヶ月以上で10点、1年以上で20点、2年以上で30点）
	道内自治体での実績			20	●上記のうち、情報化推進アドバイザーに道内地方公共団体での対応実績があるか。 （1年未満で0点、1年以上で10点、2年以上で20点）
	有資格等	1		10	●下記に示す情報処理に関連する資格又は試験の取得・合格実績が1つ以上あるか。 ・PMP（プロジェクトマネジメント・プロフェッショナル）又は技術士（情報工学部門） ・情報処理技術者（高度な知識・技能）の試験（該当する試験科目のいずれか。旧制度の試験においても現行制度の区分に合致していればよい） 1つ：必須要件、2つ以上：10点
	経験年数			20	●情報処理業務の経験年数 （A：20年以上、B：10年～19年、C：9年～5年、D：4年～1年、E：1年未満）
③情報化推進アドバイザー補佐		1			●情報化推進アドバイザー補佐は、①基本情報技術者以上の資格を有していること、②プロジェクトマネージャーの経験があること、③IT分野における業務経験が10年以上であることのいずれか1つ以上を満たしているか。
2 本業務に対する提案者の認識			140	0	本業務の位置づけや「北海道庁デジタル化取組方針（第4期）」との関係、また、道のシステムの現状や課題などについて記載
①業務の目的等	業務の目的・位置づけ		50		●本業務の目的や位置づけを理解しているか。 （A：優れた理解、B：十分理解、C：概ね理解、D：理解不足、E：記載がない・理解していない）
	北海道庁デジタル化取組方針（第4期）との関係性		20		●北海道庁デジタル化取組方針（第4期）と本業務の関係を理解しているか。 （A：優れた理解、B：十分理解、C：概ね理解、D：理解不足、E：記載がない・理解していない）
②道のシステム理解			20		●道の情報システムの現状や課題を把握しているか。 （A：優れた理解、B：十分理解、C：概ね理解、D：理解不足、E：記載がない・理解していない）
③サイバーセキュリティ及び個人情報取扱いに対する考え			50		●最新の脅威動向を踏まえたサイバーセキュリティの考え方や個人情報取扱いについて具体的に実効性が認められるものであるか （A：優れた内容、B：十分な内容、C：最低限の内容、D：内容不足、E：記載がない、内容がない）
3 本業務の実施方針			280	0	業務処理要領で示す各業務の作業に当たっての基本方針や作業イメージを記載
①情報システム診断	診断の視点		100		●（他の提案と比較して）診断の視点が幅広く網羅的であり、診断方法が具体的に実効性が認められるものであるか （A：最も優れた内容、B：より優れた内容、C：標準的な内容、D：より劣った内容、E：最も劣った内容又は記載がない）
	関係者（ベンダー）との中立性確保		20		●受託者はベンダーが提案した仕様書や見積書の妥当性を診断する立場であることから、どのように中立性を担保していくかが記載されているか。 （A：優れた内容、B：十分な内容、C：最低限の内容、D：内容不足、E：記載がない、内容がない）
②大規模システム構築の支援			50		●構築期間・費用、仕様などの規模が大きくなった場合における留意事項や対応方法を説明した上で、システムの企画、構築などの各フェーズにおける支援方法が記載されているか。記載されたフェーズの数によって採点する（（各フェーズごとに記載していても内容がない場合は数には入れない））。 （A：5つ以上、B：4つ、C：3つ、D：2つ、E：1つ以下）
③情報システムに関する情報の蓄積・管理	道の役割分担		20		●業務の趣旨を理解した上で受託者と道の役割を明確化しているか（道に多くの負担を求めるものではなく、かつ実現可能なものに高評価）。 （A：優れた内容、B：十分な内容、C：最低限の内容、D：内容不足、E：記載がない、内容がない）
	仕組の構築に係る工程		20		●早期に、システム情報の蓄積・管理を開始できる工程となっているか（早くても実現可能性が低いものは減点）。 （A：契約後1～2ヶ月以内、B：同3～4ヶ月以内、C：同5～6ヶ月以内、D：同7～8ヶ月以内、E：9ヶ月以上）
	蓄積・管理方法の正確性		20		●情報の正確性は担保されるか。 （A：優れた内容、B：十分な内容、C：最低限の内容、D：内容不足、E：記載がない、内容がない）
④情報システム診断研修会の実施支援	研修内容		20		●北海道庁デジタル化取組方針（第4期）の取組みを理解した研修内容となっているか （A：優れた内容、B：十分な内容、C：最低限の内容、D：内容不足、E：記載がない、内容がない）
⑤情報システムガイドラインの改訂	想定されるガイドラインの内容		20		●時代に即して道のシステム調達に役立つ提案内容となっているか。 （A：優れた内容、B：十分な内容、C：最低限の内容、D：内容不足、E：記載がない、内容がない）
⑥業務全体に関すること	業務全体の進捗管理方法		10		●本業務の進捗を管理する方法は適切か （A：優れた内容、B：十分な内容、C：最低限の内容、D：内容不足、E：記載がない、内容がない）
4 追加提案			20	0	独自の提案がある場合は記載
	追加提案		20		●本調達関係資料に明記のない独自の提案がされているか。（有用な提案に加点） （優れた内容：A 十分な内容：B 最低限の内容：C 内容不足：D 記載がない、内容がない：E）
5 全体評価			50	0	提案書全体を通した総合的な評価
	提案書全体を通した総合的な評価		50		●提案書全体を通して、提案者の知識、能力は、アドバイザー業務を行うにあたって十分なものと言えるか。 （優れた内容：A 十分な内容：B 最低限の内容：C 内容不足：D 記載がない、内容がない：E）
小計		5.00	490.00	105.00	
合計			490.00	110.00	合計600点

考え方

基礎点は要件を満たすかどうかのみをみるもので、満たしていないものがあれば失格となることから、'1'か'0'の一定値のみとしている。
評価点は、「3 本業務の実施方針」の「①情報システム診断－診断の視点」及び「6 全体評価」を除き次の考え方で重み付けした。

- 50：今回の調達で特に重要と考えられる要件
- 20：重要と考えられる要件
- 10：比較したい要件
- 5：一般的であり、差別化に繋がらない要件